

# 令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	21	高知北	高等学校	課程	多(昼)
------	----	-----	------	----	------

高知県の教育の基本理念	(1)学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る。  生徒一人一人に合った柔軟できめ細かな支援体制や学習活動、地域探究活動、大学や関係機関との連携等の充実を図ることにより、多様な個性を認め合い、自立した人材を育成する。
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○高校を卒業したいという強い意志をもった生徒を募集します。 ○自分らしく学び、高校生活を送ることで成長したいという思いをもった生徒を募集します。 ○これまでの自分と違う新しいことにチャレンジしたいと願う生徒を求めています。 ○多様な背景をもった一人一人の違いを認め、ともに成長しようとする生徒を求めています。  【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○他者の生き方を認め、自分自身の存在を前向きにとらえようとする心を育てます。 ○社会で自立して生きるために必要となる基礎学力を育成します。 ○社会生活に必要な社会人としての基礎力・社会性・コミュニケーション力を育てます。 ○最後まであきらめず、チャレンジする気持ちを育てます。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○共通講座・特別講座・高大連携を受講することで学びの幅を広げていきます。 ○不登校生徒が安心して教育を受けられる環境整備を行い、生徒支援につなげます。 ○あったかノートやキャリアデザインノートなどを活用し、自己理解・他者理解・キャリアプランニング力などを高めます。 ○ハートフルドア事業を活用し、教育・医療・福祉の視点から生徒の成長を支援します。 ○特別な支援を必要とする生徒への教育の充実のため、「未来を拓く(通級による指導)」を実施します。	

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	・授業デザインプロジェクトに基づいた授業改善を推進し、生徒の自立的な学びが促されている。学校評価アンケートの授業に関する質問では生徒からの肯定的評価が高く、授業改善への丁寧な取組が窺える。これまでの取組の継続に加えて、授業の中で汎用的な力を育む場を設定するなどさらなる充実を期待する。 ・C層以上の生徒の増加を目指して数値目標を設定し、授業改善や生徒の意欲を高める取組が実践されている。 ・学力は個々の差があり、サポートも大変だと思う。できている子、やろうとする子が退屈にならず、やる気を失うことがない環境づくりをしてもらいたい。
【社会性の育成】 評価 【 B 】	・あったかノートやキャリアデザインノートなどを活用した取組により、高知県オリジナルアンケート結果では、「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合が増加するなど、取組の成果が窺える。地域と連携した活動や学校行事等では、他者との関わり合いを意図的に位置付け、生徒の社会性育成を育む取組の充実を図っている。 ・友達と関係をつくれる授業や活動、部活動の工夫をお願いしたい。
【チーム学校】 評価 【 A 】	・働き方改革に向けた取組が浸透しており、業務改善が図られている。また、学校の特色を生かし、進路保障に向けた相談支援、通級による指導を通じた個別支援の実施等、相談支援体制が構築されている。 ・あらゆる生徒に対して進路保障を最優先に考え、学校が一体となって取り組んでいる様子が伝わってくる。 ・卒業後、社会で自立できる力を身に付けられる学校生活であること願っている。生徒に寄り添ってくれる先生方には保護者の一人として感謝している。

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	①C層以上の生徒の増加 ・1年(R7年度1年4月)19.2%→(R7年度1年11月目標)35% ・2年(R6年度1年4月)10.2%→(R7年度2年11月目標)25% ②授業外学習時間の増加 1・2年平均28.5分(R6第2回)→45分(R7第2回) ③将来のための勉強をしている生徒の増加 全学年平均70.2%(R6第2回)→80%(R7第2回)	・公開授業週間年間2回を継続する。 ・ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりに関する授業評価を実施する。 ・定期考査に向けた学習プリントの配付やタブレットでの配信を行い、自学に結び付ける。 ・面談等を通して、目標の早期設定に努める。	B ①1年:第2回実施後に評価、2年:20.0%(R7年度第1回) ②1・2年平均32.5分(R7年度第1回) ③全学年平均73.8% 昨年度と比較すると①～③のすべて項目で改善傾向が見られる。	・授業デザインプロジェクトに基づいた授業改善を推進する。 ・生徒が自学することができるよう課題の配付を行う。 ・教科登録の面談等を通して目標設定に努める。	B ①1年:20.9%(R7年度第1回19.2%)、2年:16.2%(R7年度第1回20.0%、R6年度1年第2回19.5%) ②1・2年平均24.5分(R7年度第1回32.5分、R6年度第2回28.5分) ③全学年平均78.4%(R7年度第1回73.8%、R6年度第2回70.2%) 昨年度と比較すると③が上昇	①については、授業において基礎・基本の徹底を継続して行うとともにデジタルドリルを活用する。 ②については、ICTを活用するなどして、課題を配信、配付する取組を推進する。 ③については、授業内容と実社会とを結び付けるような問いを各授業で設定するよう努める。
	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	①自己肯定感をもつ生徒の増加 「自分という存在を大切に思える」肯定的回答割合80%以上(R6第2回76.3%) ⑤他者との協働ができる生徒の増加 「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」肯定的回答割合97%以上(R6第2回94.4%) ⑥未来への希望を持つ生徒の増加 「将来の夢や目標を持っている」80%以上(R6第2回71.5%)	○社会人としての基礎力 校内美化や挨拶を励行するとともに、授業、総合的な探究の時間、体験活動、行事等を通じて生徒の自己肯定感を高めるとともに社会性の育成を図る。 ○生徒の自主活動の推進 生徒会活動・部活動の活性化やボランティア活動の推進を図り、生徒自ら主体的に考え、判断し、行動する場を意図的に計画する。	C ④全学年平均72.1%(R6年度第2回76.3% R7年度県平均86.5%) ⑤全学年平均94.4%(R6年度第2回94.4% R7年度県平均96.1%) ⑥全学年平均66.8%(R6年度第2回71.5% R7年度県平均79.5%) ④、⑥は県平均より10ポイント以上低く、また、昨年度より少し下降している。	・文化祭等の学校行事を通して、他者とコミュニケーションを図りながら協働して取り組むことができるよう支援する。 ・あったかノート、キャリアデザインノートを活用する。 ・個別面談の実施	B ④全学年平均74.6%(R7年度第1回72.1%、R6年度第2回76.3%、R7年度県平均86.1%) ⑤全学年平均90.8%(R7年度第1回94.4%、R6年度第2回94.4%、R7年度県平均95.6%) ⑥全学年平均71.2%(R7年度第1回66.8%、R6年度第2回71.5%、R7年度県平均82.1%) ④、⑤、⑥すべて昨年度より少し下降しているが、④、⑤は令和7年度第1回と比較すると上昇している。	④、⑤については、スモールステップで、「できる」「分かる」授業づくりを進める。 ⑥については、ICTを活用するなどして、課題を配信、配付する取組を推進する。 ⑦については、授業内容と実社会とを結び付けるような問いを各授業で設定するよう努める。
取組項目	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	⑦地域と自分との関わりについて考える生徒の増加 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる」肯定的回答65%以上(R6第2回60.5%) ⑧地域と連携した活動の実施 地域や関係機関と連携した活動を年15回以上実施	○総合的な探究の時間「地域発見」「未来へのプロセス」等 ・地域の施設や郷土の偉人・史跡についての理解を深めるフィールドワーク ・専門学校や地元企業等についての理解を深める訪問、見学 ○防災授業や講演等を地域に開放する。	B ⑦全学年平均54.8%(R6年度第2回60.5% R7年度県平均65.1%) ⑧地域や関係機関と連携した活動17回実施 総合的な探究の時間を中心に連携を図ることができている。	防災授業や避難所開設訓練、保育園との合同避難訓練等、地域と連携した活動を実施する。	B ⑦全学年平均51.6%(R7年度第1回54.8%、R6年度第2回60.5%、R7年度県平均64.3%) ⑧地域や関係機関と連携した活動35回実施 総合的な探究の時間を中心に連携を図ることができている。	地域と連携した活動を実施することはできているため、今後は参加生徒を増やすことができるよう生徒会を中心に取り組んでいく。また、地域貢献という視点での取組を検討していく
	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	⑨他者と関わろうとする生徒の増加 「ペア活動やグループ活動などの場面では毎回参加することができる」肯定的回答90%以上(R6後期93.3%) ⑩授業における話し合い等の機会の増加 「授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」肯定的回答85%以上(R6第2回71.6%)	○授業やロングホーム等の場面において、自らが考えたことを意見交換するなど、生徒同士が関わり合う場面を意図的に設定する ○DX加速化推進事業の取組の一つとして、パソコン部がゲーミングPCを活用して、文化祭でマイクラフトを用いた防災関連の発表を行う	B ⑨全学年平均86.4% ・教員へのアンケート項目:「自ら考えたことを意見交換するなど、生徒同士が関わり合う場面を設定している」肯定群57.1% ⑩全学年平均86.4%(R6第2回71.6% R7年度県平均90.5%)	他者の意見を認めるとともに、自分の意見を述べるような場面を設定する	B ⑨全学年平均 前期86.4% 後期83.5% ・教員へのアンケート項目:「自ら考えたことを意見交換するなど、生徒同士が関わり合う場面を設定している」肯定群 前期57.1% 後期60.9% ⑩全学年平均78.4%(R7年度第1回86.4%、R6年度第2回71.6%、R7年度県平均88.8%)	高知県オリジナルアンケート「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」の肯定的回答は県平均を大きく下回り、教員の回答と相違があるため、今後は、授業デザインプロジェクトの取組を充実させていく。

重点項目	取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	★学校の魅力化・特色化 ・生徒の進路保障 ・通級による指導を通じた個別支援の充実 ・教育相談体制の再構築	○魅力化・特色化の具体的な目標(指標) ①卒業予定者における進路未定者20%以内(R2:34%、R3:27.8%、R4:29.6%、R5:26.2%、R6:23.7%) ②通級による指導の体制づくりと教材・プログラムづくり ③「何か困ったことや問題が起きたとき、周りの人に相談することができる」生徒の肯定的回答90%以上(R6第2回80.4%) ○学校運営協議会等の実施回数 2回	・進学、就職に関する情報提供を積極的に行うことや就職に関してアドバイザーとの連携を密にするなどして、生徒の選択肢を増やしていく。 ・外部機関との連携を図り、新しい進路先の開拓を行う ・通級指導については、県教委、高知大学、県外の高校等との連携を密にしている。 ・フューチャラボ(Fラボ)を活用し、相談体制を充実させること等を通して教室に入りづらい生徒への対応方法を構築する。	B ⑪進路希望未定者 23.1% ⑫関係者と連携を図りながら、通級の指導の充実に取り組んでいる。 ⑬全学年平均80.2%(R6第2回80.4% R7年度県平均85.9%) ○学校運営協議会の実施回数1回(7月23日実施)	・早期からの進路対策を行えるよう、生徒、保護者、教員間の連携を密にする。 ・外部機関との連携を強化、専門家の助言を得ることで、通級の指導の充実を図る。 ・教職員が生徒の話を傾聴することを徹底し、生徒が相談しやすい環境を整える。	B ⑪進路未定者(R8.3.12時点)20.0%(R2:34%、R3:27.8%、R4:29.6%、R5:26.2%、R6:23.7%) R7進路状況:大学短大8名、専門学校等15名、就職5名、その他2名、アルバイト2名、未定8名 ⑫県外視察を行い、通級の指導の充実改善に取り組んでいる。 ⑬全学年平均79.7%(R7年度第1回80.2%、R6年度第2回80.4%、R7年度県平均85.7%) ○学校運営協議会の実施回数2回	【進路保障】進路指導部を中心とした進路指導体制を確立するよう努める。 【通級指導】生徒自身の困りに焦点を当てた指導を充実させていく。 【Fラボ】生徒サポート室Fラボが、生徒サポート室等を活用して、教育相談事業を強化するとともに、SC、SSW等とも連携を強化する。
	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○倫理観堅持のための具体的な目標(指標) ④個人情報管理の適正な管理のために複数人によるチェックを行う 100% ⑤校務系パソコンへのポップアップお知らせ機能を必ず確認する 100% ⑥校内研修の実施回数 年4回以上 ⑦不祥事防止委員会の実施回数 年6回以上	・成績会議後に個人情報の取扱いについて確認し、確実に実行する。 ・職階等でお知らせ機能の内容を再度確認する。 ・研修において効果的な方策を検討する。 ・不祥事防止委員会では、些細な案件も見逃すことがないよう情報共有し、全職員に周知する。	B ⑭100%実施 ⑮90%以上実施 ⑯4回実施 ⑰6回実施	・これまでの取組を継続するとともに徹底を図る。 ・効果的な取組を取り入れることができるよう、情報収集を行う。 ・不祥事防止委員会で話し合われたことを全職員で共有する。	B ⑭100%実施 ⑮90%以上実施 ⑯5回実施 ⑰7回実施	夜間部、通信制とも連携を図り、不祥事防止に関する研修を定期的に実施する。
	★長時間勤務の解消 ○勤務時間の適正な管理 ○教職員のワークライフバランスの実現	⑱勤務状況一覧表の適正な運用・管理 ⑲2か月連続長時間勤務者(45時間):0人	・月ごとの勤務状況一覧表のチェック ・長時間勤務者への指導・支援 ・会議等におけるペーパーレス化	B ⑱適正に運用管理を行っている ⑲1人	・これまでの取組を継続するとともに徹底を図る。 ・業務の改善を常に行うことができる体制を構築する。 ・個別面談を実施する。	A ⑱適正に運用管理を行っている ⑲1人	【長時間勤務】 ・面談を継続して実施 ・スクラップできる業務を洗い出して実践する。